

特別支援教育部会

令和5年度 1月例会報告



ブロック名	月例会	参加人数	会場
A-1	1月	38名	千葉市内小学校
<p>1 各校の授業実践について（グループごとに報告）</p> <p>（1）算数の実践</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すごろく…実態に合わせてそれぞれの課題を変えて取り組んだ ・かさの学習…実物を使うことで、児童が興味をもてるようにした ギガタブを使用して実践した ・買い物の学習…「しおさいマーケットで買い物しよう」 自作の商品で買い物の学習をすることによって、楽しい学習になった 本物のお金を使って、計算の仕方を学習した <p>（2）体育の実践</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の年齢に応じて、交流で学習を行うことにより、児童の刺激になった ・「体育が好き」「楽しく取り組む」ことをテーマに学習を進めることで、児童が意欲的に取り組めた ・道具の準備も動きとして捉え、児童と一緒に準備を行うことで、児童の活動時間の確保につながった <p>（3）生活単元学習の実践</p> <ul style="list-style-type: none"> ・好きなものと嫌いなものを混ぜて、商品を作る学習をすることで、苦手な食べ物でも食べる大切さを楽しく学ぶことができた ・調理実習を行う際に、食べたいものを食べるにはどのようにすればよいかを考えながら学習することで、調理をすることの必要性を感じる事ができた ・学年との交流を学級単位で行うことで、通常学級の児童にとっても良い経験になった ・ギガタブを用いて気持ちを整理する学習を行うことで、げんきキャンプで楽しくゲームをすることができた <p>2 諸連絡</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケートのお願い 			

ブロック名	月例会	参加人数	会場
A-2	1月	27名	千葉市内小学校

【ハンドブックについて】

- ・千葉市養護教育センターホームページ
- ・内容の紹介

【情報交換】

《げんきキャンプについて》

- ・2泊の良さは親と離れること、活動が充実すること。負担は大きい。
- ・活動内容が変わらないため、毎年同じような活動になってしまう。
- ・所外での活動をするためには、交通費を負担する必要がある。自校だけの活動にはなってしまうが、それぞれの目標があればよい。

《会計について》

- ・実態がわからない中で、共同購入費の計画を立てることが難しい。
- ・ドリルは各家庭で購入してもらった。
- ・全員共通で購入するものは一つのファイルで管理し、個別に購入するものは個別のファイルを作成している。
- ・交流で使うものに関しては、通常学級と一緒に購入してもらっている。

《新年度準備について》

- ・2月から6年生の上程に向けて発達検査を行う。夏の面談で検査の結果を参考に保護者と進路について相談できるとよい。
- ・時間割は4月の段階はお試しで組んでみて、5月までに正式に組めるとよい。
- ・年間指導計画は学校行事と関連付けて計画を立てる。
- ・交流の計画を年度初めに保護者と確認する。紙ベースで記録を残すと、後で保護者と進捗を確認しやすい。

《年度末行事について（6年生を送る会・卒業式・お別れ式）》

- ・6年生を送る会では、特別支援学級の人数が少ないため、7年生の先生に協力してもらって一緒に発表している。
- ・演奏は事前に録音したものを流し、当日は動きだけを見せる。
- ・卒業式で体育館に入れないうちはオンラインで参加している。
⇒式関係の行事に参加できるように長期的に指導を続ける。手元に式次第を用意し、文字や絵を使って参加態度などを明示すると見通しをもって参加できる。

《交流について》

- ・技能教科（図工・体育など）の交流が中心。単元での交流を行っている。情緒の子は可能な限り行かせたい。
- ・給食の交流を行っている。
- ・一人一人の特性に合わせて、可能な限り通常学級担任にも配慮をしてもらう。板書に読み仮名を書くなど。
- ・通常学級の子と同じ目標ではなく、交流にいく子にとって、「できた」と思えるような交流になるとよい。

ブロック名	月例会	参加人数	会場
B	1月	31名	千葉市教育会館

◎各学校において、9教科の学習の中で困っていることをグループ毎に討議

事前にアンケート集計を行い、特に以下のことについて質問があった。また、事前に講師の先生にその対応について助言をいただいた。

- ・生徒の能力差が大きく、職員の手が行き届かない。
→個別の教材の準備を事前に行うことやグルーピングで内容を一定化させる。
- ・作業学習や体育で、職員の手が行き届かない。
→今年度の見通しを立て、何がこの集団ならできるのか活動内容の精選をする。作業学習の基本は、その時の生徒にあった製品と工程(補助具)を用意することが大切。また、体育は安全の確保と十分な運動量が必要。繰り返すことで自ら取り組めるようにさせる。
- ・自閉症の生徒で、助詞や語尾がうまく使い分けができない。
→様々なワークシートを用意し、パターン化したものを定着するまで継続する。
- ・美術や技術・家庭の教科で苦勞している。
→生徒の実態から自ら主体的に取り組める教育課程を編成する。
- ・音楽が苦手な生徒への対応
→何を苦手としているか具体的に見極めて、社会適用上で必要なら少しずつ「こだわりをなくしていく」状況作りを行う。
- ・他学年の授業を担当していて、自分の生徒たちの授業が見られない。
→教務・管理職等と相談して、見られる時間作りを行うことが大切。
- ・療育手帳が取れない生徒の学習や進路をどうすればよいか。
→公立高校やアクティブスクール、サポート校等の進路。最低中学1年生までの国・数・英の学習をさせておく。

◎特別支援教育における教科指導について(卒業後の進路を踏まえて)

講師 千葉市内小学校校長

- ・教科学習は、障害者の社会的自立を目指した教育課程が必須。
- ・社会的自立とは、大きく分けると経済的自立と生活自立がある。
- ・生活自立(夜間や休日の生活)について、教科に関わる事柄の説明。
- ・卒業後を見据えた進路指導が必要。
- ・進路先を考える上で、療育手帳の有無からどれくらいの学力を教科指導で身につけるか。

ブロック名	月例会	参加人数	会場
C	1月	39名	オンライン開催

グループ別研修

〈きこえ担当者グループ〉

○R6年度 県教研の提案について

「きこえの教室通級児童の交流」というテーマに基づき、3校合同のグループ学習のもち方や内容について話し合った。6年生同士が質問をし合ったり、卒業生のお話を聞いたりする場面を設けることなどを決めた。

○中学校への引継ぎについて

保護者が進学先の中学校との面談に向け動けるよう、担当者から伝える内容を話し合った。

- ・入学説明会で一度中学校へ伝え、年度内に一度面談を行うこと
 - ・年度が明け、担任が分かり次第、面談を行うこと
- など、保護者の動き方やタイミング等の共通理解を図った。

〈ことば担当者グループ〉

○各校ことばの教室の施設紹介

各校から映像にて、教室環境や掲示物、教材などを紹介し合った。あわせて、教室環境で大事にしていること、掲示物や教材についての説明、学級経営などの説明も付け加え、全体でアイデアの共有を図った。

- ・教室にはあまり置かないようにしたり、必要最低限な掲示物の量にしたりすることで、集中して学習に取り組めるようにしている。
- ・1つの教室を複数の担当で交代して使用し、学習の場の確保を行っている。
- ・廊下の掲示物では、楽しく取り組める口の体操、ことば遊び、季節に関わる事柄等、誰が見ても楽しめる内容にし、通級児童以外の人たちへのことばの教室への啓発につなげている。
- ・学校名や個人名をふせた上で、通級児童の学習の取り組みや作品なども掲示することで、通級児童同士の交流を図ったり考えを共有したりする場になっている。
- ・疑問に思うことがあれば、校内の担当者に相談し、担当者同士で問題を共有し合う体制を作っている。

〈諸連絡〉

- ・県特連について
- ・吃音映像資料の連絡
- ・アンケートの連絡

ブロック名	月例会	参加人数	会場
D	1月	16名	オンライン研修

一年間の振り返りと次年度の見通し

○4グループに分かれて話し合いを行い、発表しあった。

<今年度の振り返り>

- ・今年度のテーマでは、卒業後の児童生徒がどのような場所で学習したり、支援を受けられるのか、知る機会があったりして良かった。
- ・教材の紹介や教材研究を行うのは、とても有効であった。

<次年度の見通し>研修したいことを出しあった。

- ・今年度のテーマを来年度も継続したい。
- ・在学中の指導が、卒業後にどのように生かされているのかについて知りたい。
- ・高校より先の進路、就職等の様子についても知りたい。
- ・早い時期に教材研究を行い、指導に生かすことができるようにしたい。
- ・親子関係がこじれている場合が増えてきているため、愛着問題などの心理系の研修を受けたい。
- ・英語の学習の仕方について研修を受けたい。

○推進委員より

- ・今年度の会計報告 承認
- ・今年度の推進委員より一言
- ・来年度の推進委員 承認

特別支援教育部会

**令和5年度
11月例会報告**



ブロック名	月例会	参加人数	会場
A-1	11月	53名	千葉市内小学校
<p>1 教室環境と授業実践について</p> <p>授業者 千葉市内小学校 教諭</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教室環境参観 <ul style="list-style-type: none"> 時間割の確認、児童作品の掲示、教室の使い方、教科の掲示物、二つの教室の使い分け ・体育の場づくりについて <ul style="list-style-type: none"> 跳び箱を使った場づくりの仕方 児童の導線やねらいを考えて場を設定 ・授業実践について <ul style="list-style-type: none"> 日記の実践の仕方について（児童の実態に合わせてプリントを変える。） 交流の予定表・キャリアパスポートの例 個別の指導計画・個別の支援計画・通知表について 自立活動について（児童の課題を明確にして） ・質疑応答 <ul style="list-style-type: none"> 支援計画の内容について、保護者との合意形成の時期は実態に合わせて変えていく遅くとも7月までに。 学力テストの受け方、自教室で壁を向いて受ける。国語については個別に対応。 交流の参加の仕方、児童の実態によって課題を変え、柔軟に参加させていくことが望ましい。 児童の進路について、中学校の特支級、特別支援学校どちらが良いか。 プライベートゾーンについての教育。 <p>(2) 諸連絡</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1月例会について 			

ブロック名	月例会	参加人数	会場
A-2	11月	29名	千葉市内小学校

【実践報告会（市内小学校）】

○算数 単元名 長さ「魚つりをしよう」
 本時の目標 ○自分に合った方法で、比較や測定ができる。
 ○数字で長さを表すことができる。
 本時の展開（10/15） G1：長短認識、G2：比較（測定）、G3：測定、G4：測定、検討

展開	学習内容と活動	指導や支援の手立て○
導入	○本時の内容を確認する。 ○『サイコロけいさん』プリントに取り組む。	○一人で取り組むことが難しい児童には、計算の補助や支援をする。
展開	○魚つりをする。 ・魚のプリントを貼る。 ・測定を行い、プリントに記入する。 ・代表の魚を選び、黒板に貼る。	【G1】 魚釣り、測定ともに支援し、一緒に目盛りを読む。 【G2】 測定を支援する。 【G3,4】 机間指導を行い、測定の答え合わせをする。
まとめ	○『今日の大当たり』を決める。 ・個人のホワイトボードを黒板に移し、数直線上で長さ順に並べる。 ・ルーレットで、「(例) 一番長い」魚を決める。 ・次回のルーレットの内容を決める。 ○本時の内容を振り返る。	○数直線へ注目を促し、数値を比べたり、何番目かを確認させたりする。 ○選ばれた児童に金シールを貼る。 ○『今日の大当たり』プリントに記入する。

成果

- ・計算、測定ともに、個に対応できる教具であった。
- ・最後にランダムで「○番目に、長い／短い」が決まることにより、長さや種類にこだわることなく測定することができた。

【ワークショップ】

○単元「長さ」の授業展開を考えてみよう。

例) ・電車を活用

- ・電車をつなぎ合わせる。さいころを振って出た目の数だけつなげる。
- ・1車両の長さを測る。たし算やかけ算を使って考える。
- ・発達段階に合わせグループに分かれる。
- ・単位mm、cm、mなどの単位換算
- ・定規などを使って、実線を書いたり車両を描いたりする。

課題

- ・特に高グループについて、目標や教具のレベルアップが必要ではないか。
- ・直線の物ではないため、測定される教具として、魚は妥当であったか。

ブロック名	月例会	参加人数	会場
B	11月	32名	千葉市内特別支援学校及び 千葉市内中学校

(1) 千葉市内特別支援学校見学

AからCグループに分かれて、作業学習の様子を見学した。作業学習班は、縫製班、事務班、食品加工班、農園芸班、木材加工班の5つを見学することができた。実際に生徒が活動する様子を見学することができた。その後、理科室において教務主任より、学校の概略説明と入試を受けるにあたっての具体的な心構えを説明を受けた。

(2) グループ討議(千葉市内中学校体育館)

各学校における進路指導についてグループに分かれて討議を行った。

Aグループ

- ・進路について、担任としてどのような進路を提示しているか。
- ・サポート校の後、どのような進路になるか。
- ・手帳を取得する。しない。の進路の方向性。
- ・障害受容の仕方→今後の生活を考える。

Bグループ

- ・公立高校を受ける支援学級の生徒の調査書→事前に高校と相談。
- ・支援学級の調査書→保護者に渡して記入。開示まで見せない。全て記入して確認してもらう。
- ・高等特支受検について→見学、体験会を必ず行う。受検したいという生徒の強い気持ちが必要。

Cグループ

- ・障害受容ができていない生徒→公立高校や私立高校を希望。船橋のアクティブスクールやサポート校。
- ・期限付きの生徒→泉のアクティブスクールや大宮の夜間、サポート校。
- ・障害受容をどのようにしていくか→手帳はお守りがわり。SSTや自立活動、発達障害支援センター紹介
保護者には生徒の実態を丁寧に伝える。

Dグループ

- ・それぞれの学校における受検の仕方を発表

Eグループ

- ・受検しても合格の可能性が非常に低い生徒・保護者への対応→面談を通して、丁寧に説明。最後に選ぶのは家庭判断。

ブロック名	月例会	参加人数	会場
C	11月	36名	千葉市内小学校

○授業展開（同室またはモニター視聴の選択式）

発音に課題のある児童の個別学習

○協議会

①授業者より

・本時の指導、本児の様子（構音の状態や学習意欲など）、助言者や参加者への質問 など

②参加者の質問、感想

- ・本児の集中力が続くよう、教材や学習の順序を工夫したことが効果的だった。本児が意欲的に参加していた。
- ・本児の言葉を発音指導に取り入れていたのが、個別学習ならではの良さ。臨機応変に対応していた。
- ・使う予定の教材を変更していた。本児の興味関心や学習意欲を踏まえて判断したのがよかった。
- ・発音を聞き分けることができてこそ、定着していく。音出しの練習をしている音よりも、聞き分けの音の方が先に進んでいるべき。本児は、他者弁別ができていた。

③助言者より

- ・前半が集中しやすいという本児の実態から、通常の発音指導の順序を入れ替えることを提案した。
- ・病院での発音訓練では、始めに前回の復習をし、できていればその音の発音練習から始める。うまく進めば、新しい音の練習を行う。元通りになっていけば口の体操から始める、など、その時の児童の状態を見て指導の順序や比重を変えている。
- ・正しい音を確認し、フィードバックを強化するのが大事。
- ・「ス」は、音がしっかり入り、8割ぐらい安定して言えるなら舌を出さなくてよい。
- ・自分の練習している音が、単語の中のどの位置にあるのか、弁別できているとよい。
- ・音韻を理解し、意識することで練習が進む。まずは音韻分解ができているかを確認する。
- ・舌だけをしっかりと動かすことが目標。下顎の力を借りずにできたらよいが、本児の場合はスモールステップで進めていくとよい。
- ・課題音が入っていない単語を選ぶようにする。興味がある単語なら入っていてもよい。また、言える音であっても、本児が知らない単語は選ばないようにしている。
- ・舌出しの状態が戻らない児童へは、舌の位置を図や模型で教える。新しい位置を覚えさせ、鏡を見ながら習得していくとよい。

〈諸連絡〉

- ・千葉市ことばを育てる親の会からのお知らせ
- ・ブロック研修会のお知らせ
- ・1月例会の連絡

ブロック名	月例会	参加人数	会場
D	11月	18名	千葉市内中学校

「個別の配慮が必要な生徒の自立・就労に向けて」

講師 千葉市発達障害者支援センター 相談支援員

1 発達障害者支援センターの役割

- ・主な業務は相談(発達支援・就労相談)と、普及啓発(講師派遣・子育てアシスト・ペアレントトレーニング等)
- ・初回の相談は、申し込みから1~2カ月待ち。

2 発達障害の基礎知識

- ・発達障害は個性か、障害か。障害は、自己肯定感が下がり生活に支障があること。個性は、周りのサポートを受けて成功体験を積み自己肯定感を育むことで生きやすさにつながる。

3 発達障害特性のある生徒へのかかわり方

- ・支援者として、①日常的なかかわりを大事にする。②自己肯定感を高める。③困っていることに焦点をあてる。④ユニバーサルデザインで考える。を心掛ける。
- ・中学生への支援ポイントは、①適度な距離で見守る。②将来の自立を見越したかかわりをする。

4 高校で受けられる支援

- ・高校の選び方として、①学校見学や説明会に行く。②学校の雰囲気を確認する。③相談窓口を確認する。④合理的配慮を相談する。
- ・高校生が将来のために身につけたい力として、①自己理解を深められるようにする。②問題解決をできる力を養う。

5 高校卒業後の進路

- ・進学は、大学等のオープンキャンパスに参加し、相談窓口を確認することが大切。
- ・就労訓練は、障害者向けの福祉サービスや就労支援機関、一般向けの就労支援機関。
- ・就労は、障害者雇用か一般就労、福祉的就労がある。

6 事例紹介

- ・自己理解を深め、生き生きした生活につながった例。
- ・障害受容ができず、自己理解が進まない例。

7 まとめ

- ・支援者は、①本人との信頼関係の構築が大切。②障害名ではなくその人自身を見つめる。③自分自身が心身ともに健康でいること。が大切。

特別支援教育部会

令和5年度 10月例会報告



ブロック名	月例会	参加人数	会場
A-1	10月	44名	千葉市内小学校
<p>1 授業研究 授業者 千葉市内小学校 教諭 自立活動「2年生をお楽しみ会にしようたいしょう」</p> <p>2 研究協議会</p> <p>(1) 授業者より</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本単元の授業は具体的な目当てをもって進めた。 ・自立活動について様々な実践を教えてもらいたい。 <p>(2) グループ協議</p> <p>(3) グループごとに発表</p> <p>○授業について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの課題の名称を「〇〇クエスト」とすることで、児童がゲーム感覚で楽しめた。 ・「クエスト」を文章化して黒板に掲示するとより効果的なのではないか。 ・目標を絞った発問にすると、児童がより具体的に考えられるのではないか。 ・「クエスト」をどんどんクリアしていく形にするとより効果的になるのではないか。 <p>○自校の自立活動について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの課題に合わせて、学習課題を設定している。 ・紐結び、点結び、ボタンとめ、縫い物等は手先のトレーニングに活用している。 ・スリーヒントクイズや絵カードを使って、SSTを行っている。 ・わなげ等、体を動かす活動を行っている。 ・家庭でできる課題を紹介し、家庭でも取り組んでいる。 ・交流級とのお祭り等、児童が楽しめる体験活動を取り入れている。 ・自立活動の時間だけでなく日常の中でも取り組んでいくことが重要である。 ・どのような課題においても、カレンダーや掲示物を用いることによって、児童が見通しをもって学習に取り組めるようにしていくことが重要である。 <p>(4) 講師による講話 養護教育センター 指導主事</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「クエスト」がとても良いネーミングだった。 ・自立活動についてよく研究されている。 ・自立活動を行う際には、まず児童の実態を把握することから始める。 ・2年生全体を招待するという良い実践なので、ぜひ他の学校でも実践してほしい。 ・自立活動で大切なのは教師の関わり方である。 →児童の行動を見て、もっと声掛けをしていくとよい。 →教師がモデルになることも重要である。 ・どの学校でも特別な支援が必要な児童を校内委員会等で把握し、全校体制を確立してほしい。 <p>(5) 諸連絡</p> <ul style="list-style-type: none"> ・11月例会について 			

ブロック名	月例会	参加人数	会場
A2ブロック	10月	現地8名・オンライン37名	千葉市内小学校

【講師紹介】

- ・千葉市内小学校 主幹教諭

【教室環境の見学、教材教具の紹介】

- ・教師用机の位置を教室前方ではなく、窓際に配置する。(児童の視野にあまり入らないように)
- ・座ったときの姿勢が悪い児童の机の前部分に段ボールでガードをつける。(足が中に入ること、姿勢がよくなった)
- ・朝の会や帰りの会の司会の台詞原稿を用意する。(最後まで言うことや丁寧な言葉遣いを身につける)
- ・掃除で雑巾がけがしっかりできるように、床にビニールテープで印をつける。(色分けすることで、隙間をあけないで拭くことができる)
- ・ロッカーは縦1列を同じ児童が使う。(自分のものを管理する)
- ・手紙は一人ずつのカゴに入れることで、確実に配付する。
- ・トイレに行くことを自分から言えるように絵カードを活用する。(絵カードを担当に見せてから、トイレに行き、トイレの個室入口付近の箱に絵カードをプットインする)
- ・自立活動の教材は指先の巧緻性を高める教材をたくさん用意し、児童が自分で選んで活動できるようにする。また、知的好奇心をくすぐるような教材にする。
- ・クールダウンできる場所を教室内に用意する。(保健室で使わなくなったソファを設置することで、クールダウンできる)
- ・できる限り余計なものは児童に見えないようにする。(視覚的刺激を避けるため)

【特別な支援が必要な児童への指導・支援について (アンケートより)】

- ・支援計画を作成した際の、起案の順番について
- ・通常学級での個別の支援計画や指導計画の活用について
- ・問題行動をやめない自閉症の児童への対応
- ・勉強することを拒む児童への対処の方法
- ・コミュニケーションがなかなか取れない児童とのコミュニケーションの取り方
- ・通常学級への交流に行く際の留意点
- ・教科書の活用について

【質疑応答】

- ・逆交流で来ている児童の対応
- ・薬を服用していて、日中寝てしまう児童の対応

ブロック名	月例会	参加人数	会場
Bブロック	10月	37名	千葉市内中学校

(1) 授業校からの感想

- ・怪我をしないようにするための最小限にするための寝技を行った。他人への思いや、挨拶、礼法を意識した指導を心がけた。千葉市の支援学級で柔道の授業を行ってくれる学校が増えれば嬉しいと思う。
- ・交流学級での授業が多く、全員が揃っての授業が久々だったので、新たな生徒の一面を見ることができて良かった。

(2) グループ討議

- ・各学校の体育の授業内容について、グループ毎に情報共有を行った。

(3) 質疑・応答

- ・運動制限のある生徒にはどのように指導するか。
→ 4月からの関係構築する中で、実態を見ながら指導を行う。
- ・通常学級との体育の交流をどう行うか。
→ 昨年度末に教務主任と調整を行い、来年度の見通しをする。
- ・導入の際に何を重点的に伝えるか。
→ 最初の段階で約束事を決めておくことが大切。
- ・女子生徒への指導について
→ 男性教諭が指導するのが難しい内容はボランティアの学生などを活用する。
- ・安全面の配慮について
→ 柔道を行う場合はマット運動を十分行い、場所の確保、メガネや髪留めなどに気を配る。
- ・人数が少ない学校の場合の授業
→ 近隣学校と一緒にいるなどの工夫など。

(4) 指導・助言

- ・指導要領の内容の確認。
- ・安全面が一番。メガネ、髪留め、畳の隙間、冬場の寒さ対策(ストーブ)、保護者との確認。
- ・指導の手立てに柔道着、目印のポイントをつけたり、ギガタブを活用したりする。
- ・体づくり運動を行いながら、柔道につなげていく。一連の流れを授業内でつくる。
- ・抑え込みの寝技では、本人が理解できているか確認を行って、できていれば褒めることが大切。
- ・目的、ねらい、効果を事前に生徒に伝えながら指導を行うことが大切。

ブロック名	月例会	参加人数	会場
Cブロック	10月	35名	千葉市内小学校

○全難言の提案発表

「吃音がある子どもが幸せに生きるために ことばの教室でできること」

①健康生成論（人が健康に生きる理論）を応用し、吃音の学習に当てはめる。

首尾一貫感覚（わかる、できる、意味がある）に基づく対話を行う。

②吃音冰山説 … どもる症状や随伴症状などの見えている部分だけでなく、水面下の隠れている部分に目を向ける。行動や思考、感情の見えない部分は、水面下の氷の大きさで表される。そこから吃音の課題がわかり、対話が広がる。

③吃音チェックリスト … それぞれの項目から、児童の考えや思いを知ることができる。

吃音の課題に踏み込みやすく、より深く対話ができる。

○11月例会研究授業の指導案検討

①授業者より

・本児の実態、現在のことばの様子、指導計画について

②指導案検討

・自己弁別より先に他者弁別ができるとよい。

・児童が進んで学習に取り組めるために、どのような題材を扱うかを選択できることが個別学習の強み。児童の実態や意欲に合わせた内容になるとよい。

・到達点（どこまでできたら良いか）を担当者が把握すると、指導計画や指導法がより明確になる。児童もめあてをもつことで、より意欲が高まるのではないか。

・本時での「できた」が、次時への意欲や自信につながる。高い目標ではなく、少し手の届く目標にするとよい。

〈諸連絡〉

・千葉市ことばを育てる親の会からのお知らせ

・NPO ちば特別支援教育のお知らせ

・11月例会の連絡

ブロック名	月例会	参加人数	会場
Dブロック	10月	20名	千葉市内中学校

○国語・算数・英語・ソーシャルスキルの教材研究を行う

国語

2年生の漢字 漢字の組み立ての教材を作成。
部首やつくりを動かして、漢字を完成させることができるようにした。
漢字の形を正確に捉える練習を目的に作成。

算数

かけ算九九 遊びながらかけ算九九を習得する教材を集めた。
かけ算九九表を見ながら取り組むことができるカードゲーム3種類の紹介。
個別に児童生徒の目標やできる課題を見極める必要性も話し合った。

英語

中学生の英語 中学生がギガタブで学習できる英語教材を一覧作成。
中学生が個々の課題に合わせて、すぐに教材を使用できるようにした。
通級の指導の際に、家庭学習のやり方として提案できる。

ソーシャルスキル

ゲームとの付き合い方 中学生のゲームの時間を指導する教材を作成。
スライドに複数の児童が自分の意見や考えを書き込めるようにした。
生徒同士でお互いの考えを知ることで、ゲームとの付き合い方を考える機会にする。

○昨年度同様、ギガタブで教材を共有し、児童生徒への授業に生かせるようにする。

特別支援教育部会

**令和5年度
9月例会報告**



ブロック名	月例会	参加人数	会場
A-1	9月	52名	オンライン
<p>1 授業指導案検討 授業者 千葉市内小学校 教諭 自立活動「2年生をお楽しみ会にしようたいしょう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の実態を踏まえたためあて ・本時の展開 <p>2 グループ協議</p> <p>3 グループごとに発表、質疑応答</p> <p>○単元の指導計画について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子供たちの意欲を大切に学習内容になっている。 ・交流の場づくりには効果的。 ・本時の目標に「助言を受け入れて改善」という文言があるので、前時に話し合う時間を充実させたほうが良い。 <p>○目標と評価について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標の数を絞って、手立てを考えていくと良いのではないか。 ・単元の目標は指導要領の文言のままでもよい。 <p>○本時の活動について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動内容が盛りだくさんなので、一つに絞っても良いのではないか。 ・特別支援学級で行っている遊びを紹介してみても良いのではないか。 ・児童の実態を考えると、招待する人数を少人数にして行ったほうがよい。 <p>4 講師からのご指導 養護教育センター 指導主事</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教材研究がしっかりとされている。 ・当日は子供ファーストの授業をしてほしい。 ・自立活動とは、障害により困難なところを伸ばしていこうとするものである。 ・子供の課題となっていることだけでなく、子供が活動しやすいものに自立活動の要素を入れていくと良い。 ・お楽しみ会を全校で行ってほしい。 <p>→職員や保護者の理解を得るために自立活動の目標をしっかりと示すことが大切。</p> <p>5 諸連絡</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10月例会について 			

ブロック名	月例会	参加人数	会場
A2 ブロック	9月	25名	千葉市内小学校

【個別の支援計画・指導計画の例文紹介】

※5、6人のグループに分かれて協議

- ・個別の支援計画・指導計画の書式について（Te-compass の活用の有無）
- ・書く時期や保護者との共有の仕方について
- ・保護者の署名について
- ・合理的配慮の書き方について など

【グループごとの発表】

- ・指導計画は、Te-compass の A パターンと B パターンを活用している学校があった。
- ・交流のときの支援の方法について
- ・Te-compass を使うと保護者印の欄がないので、エクセル画面で改造して活用している。
- ・支援計画は、チェインズの書式を使っている。
- ・支援計画の保護者サインの欄の括弧の中は7月に、その下に3月分を記入している。
- ・支援計画の保護者サインの欄は、日付など追記している。
- ・チェインズとは別の書式で支援計画を書いている。簡略的な書式なので、書く負担も少ない。
- ・支援計画は4月の家庭訪問で保護者に見せるか、夏の面談で見せている。
- ・指導計画・支援計画とは別に、各教科の目標を書くものがある。
- ・指導計画は保護者に見せるかどうか。ある程度保護者にも共有することは必要だと思うが、見せなくてもよいのではないか。

【連絡】

- ・アンケートの回答のお願い（次回の内容について）
- ・作品展の作品持ち帰りの協力をお願い

ブロック名	月例会	参加人数	会場
Bブロック	9月	38名	千葉市中央 コミュニティセンター

【道徳の授業について情報交換会】 講師 なし

(1) 4つのグループに分かれての情報交換会

各学校で行っている道徳授業について、困っていることや実践例(工夫していることなど)、評価方法などをお互いに紹介し、情報交換会を行った。

(2) 各グループの発表

困り感

- ・生徒一人しかいないと内容の意見交換ができない。
- ・題材選びが難しい。
- ・SSTになった授業になってしまう時がある。
- ・毎年生徒の状況が変わり題材選びが難しい。
- ・少人数だと様々な意見に気づくことができない。
- ・教員の考えに染まってしまう。発言を控えるようにする。
- ・一斉授業の難しさ。

実践例

- ・NHKforschoolの動画。
- ・実態に応じたテーマをその都度設定。
- ・時期に応じて社会の事柄に関連づけて設定。
- ・身の回りのことを題材にする。
- ・絵本を読む。
- ・偉人についての題材を元にした授業。
- ・小学校の道徳の教科書を使用。
- ・映画やドラマを参考にした授業。
- ・グループ分けの仕方や道徳授業のルール作りをした授業。

評価

- ・指導要領を参考。
- ・発表したことをメモして置く。
- ・考えたり、話を聞いたりしている様子を評価にする。
- ・ワークシートに記入したことを評価にする。

ブロック名	月例会	参加人数	会場
Cブロック	9月	37名	オンライン

グループ別研修

〈きこえ担当者グループ〉

○R6年度 県教研の提案に向け、テーマを「きこえの教室通級児童の交流」として話し合いを進めた。ケース会議により、「ロジャーマイクの有効な使い方」等のテーマも出てきたため、今後検討していく。

○3校合同交流会の実施に向け、当日までの準備や児童同士の関わり方等を話し合った。

- ・各校でグループ学習実施
- ・交流会事前アンケートの実施
- ・参集型での交流会に向けた、ICTを活用した事前・事後の交流
- ・日程確認

〈ことば担当者グループ〉

○吃音教材である『吃音チェックリスト』、『吃音の冰山学習』、『言語関係図』の3つにおいて、各学校での実践の様子や感想などを順番に発表した。最後、吃音教材全体についての資料を読み、全員で共通理解を図った。

- ・チェックリスト … 書かれている質問事項からいろいろな話にうつり、吃音のことだけでなく、友達のこと、家族のことなど知る機会となった。
子供自身も自分の思いを3段階で評価し、評価に迷う時はその理由について考え、自分の思いを深めることにもつながった。
- ・吃音の冰山学習 … 子供に描かせ、子供同士で比較し合うことで、話が広がった。
子供の本質的な考えを担当者が知ることができた。
- ・言語関係図 … 過去や未来の自分と比較したり、自分の力で大きさを変えていくということに気付かせたりできる教材であることに気付いた。
楽しい学習をする中で、本教材を取り入れながら、吃音学習を深めていく方法もある。
- ・吃音教材資料 … チェックリスト→冰山学習→言語関係図の順番だと自然に取り組める。
教材を扱う前に、担当者が教材の意図を把握し、子供に説明することが重要である。

〈諸連絡〉

- ・県特連秋季研の案内
- ・10月例会の連絡

ブロック名	月例会	参加人数	会場
Dブロック	9月	17名	オンライン

○各小中学校の教室や教材の紹介

小学校 通常学級 2年生担任

算数 繰り上がり繰り下がり、カードを使って練習

テスト 問題は1問ずつ切り離して実施

教室 タイマーや担任の指示をカードで示す配慮を実施

小学校 LD等通級指導教室 担当者

SST 本の教材を参考にしながら、児童の実態に合わせてプリントの作成をしている。

低学年が楽しく学べるプリントを使用

コミュニケーションに関連したカードゲーム

アンガーマネジメントを遊びながら学ぶカードゲーム

学習 各学年の教科プリント

ローマ字の読み書きプリント

欲しい教材 ギガタブで使える学習アプリ

漢字のデジタル教材（指で動かしてマッチングできるもの）

助詞の学習で、反復練習できる教材

中学校 LD等通級指導教室 担当者

学校生活の振り返り 独自に作成

SST SSTの関連本

欲しい教材 英語の関連の動画

SSTの動画、中学生の年齢や時代にあった内容が必要

○10月例会の案内

今回は、9月例会で提案された欲しい教材をグループで相談しながら作成する。

ギガタブで教材を作成する予定。

作成する教材は、国語・算数・英語・SSTになる。

持ち物は、ギガタブ、教材作成に必要な資料など。

特別支援教育部会

**令和5年度
8月例会報告**



ブロック名	月例会	参加人数	会場
特別支援教育部会	8月	172名	千葉県教育会館

「アンガーマネジメントとレジリエンス」

～子どもたちとの明日を豊かに～

講師：菅野 昭子

- 1 はじめのことば
- 2 挨拶
- 3 講師紹介
- 4 講演会
- 5 質疑応答
- 6 お礼のことば
- 7 おわりのことば

菅野 昭子 様（一般社団法人日本アンガーマネジメント協会 認定アンガーマネジメントファシリテーター Ange Gardien 代表）

三重大学教育心理学教室卒業後、営業（写真関連）、マーケティング（ロシアの重電機調査）、研修企画、経理（企業年金関連）等、多種多様な企業にて経験を積む。その経験を活かし、現在官公庁、教育現場など幅広い対象に向け、講演会や研修を行う。企業の経営層に個別セッション、また電話カウンセリングにも従事する。産業カウンセラー、キャリアコンサルタント、心理相談員、一般社団法人日本アンガーマネジメント協会認定 アンガーマネジメントファシリテーター、一般財団法人日本ペップトーク普及協会認定研修ファシリテーター。 【書籍：アンガーマネジメント 怒りやすい子の育て方（かんき出版）】

【内容】

講座では、「怒りの感情を知り、自分の怒りのコントロール法を知ることによりしなやかに、楽しく教育に取り組むことができる」とともに、「子どもたちがより日々を楽しむことができる」ことを目的として、アンガーマネジメントについて丁寧に学ぶことができた。アンガーマネジメントとは、「怒らないこと」ではなく「怒る必要のあることは上手に怒ることができ、怒る必要のないことは怒らないようになること」「怒った後に後悔をしないこと」だと最初に学んだ。怒りは、「～すべき」という個人の理想や価値観が元となっていて、それらに個人の心理的、身体的な状況が合わさると生まれる。まずはそのメカニズムを知ること、怒りはコントロールできるものだと考えることができた。そして、怒りをコントロールするためには、「衝動のコントロール」「思考のコントロール」「行動のコントロール」を順番に使うと良いことを学んだ。講話では、イラストや図式で示して頂いたことで、とても理解し易かった。また、実際に自分の怒りをグループワークで顧みることで、よりイメージがもちやすく、普段の生活でも使うことができそうだと感じた。アンガーマネジメントを意識し、毎日行うことで自分自身が楽になり、楽しく教育に取り組むことができそうなものだと考えることができた。



特別支援教育部会

**令和5年度
6月例会報告**



ブロック名	月例会	参加人数	会場
A-1	6月	72名	草野小学校

1 協力校の先生方からの実践報告

①図画工作科「ソルティペイント」…ボンドや絵の具を使用して、かき氷を作る学習。

「紙漉き」…ペットボトル（800ml）、ビー玉、紙漉きキット等を使用した紙漉きの方法、その活用例や改善点等。

国語科「おでんで文づくり」…主語、目的語、述語を並べておでんにし、正しい助詞を口に出しながら選び、文を作る。

算数科「ボール入れゲーム」…ボール入れゲームを通して、足し算やかけ算の方法を学ぶ。

道徳「NHK for school を見て」

- ・排泄はがまんしない（『うんちしたの、だ〜れ？』がんこちゃん より）
- ・ものを大切にしよう（『えんぴつの家出』がんこちゃん より）
- ・生物の命を大切にしよう（『ツムちゃんのたねまき』がんこちゃんより）
- ・きれいに掃除しよう（『めざせ！ぞうきん名人おそうじ怪人ゾーキングあらわる！』ストレッチマン）
- ・困っている人がいたら助けよう（『はやとのゴール』『みんなのどうとく1ねん』学研教育みらいより）
- ・あいさつマスターになろう

②生活単元学習「クリスマス会をしよう」…クリスマス会を業間休みや昼休みに計画し、ギガタブで招待状を作り、他の学級の児童を招待した。歌やダンス、ボーリング等の活動やその準備を通して、他の学級の先生や友達との関わりをもち、コミュニケーション能力の育成を図った。

算数「かずしらべ」…イラストマグネットを使用して、給食の献立に出てくる野菜の種類調べをした。

鍵盤ハーモニカの演奏を支援する楽譜…拡大した楽譜に、鍵盤に貼るものと同じシールを貼ることによって、おさえる鍵盤を探すときの手助けとなるようにした。

図工「あじさいのまど」…半紙を絵の具で染めて、色紙をつくり、ちぎり絵でアジサイを作った。

算数「じんとりゲーム」…サイコロを使用し、出た目の数の分だけ陣地を増やせるルールにして、じんとりゲームを行った。

国語「カタカナの学習」…ひらがたとカタカナが両面で対になっているマグネットを作成し、児童の関心のある言葉を使用することによって、カタカナの学習に意欲的に取り組めるようにした。

③図画工作科「色水をつくって、塗ってみよう」…絵の具で色がついた色水同士を混ぜ合わせたり、作った色水を紙に塗ったりする活動を通して、混色を楽しめるようにした。長い和紙やタオル、コーヒーフィルター等を用意することで、色水同士を混ぜることが難しい児童も色を別のものにのせることで、混色を楽しむことができた。

図画工作科「色水をつくって、塗ってみよう」についての話し合い

- ・環境の設定について…いろいろな場があって良かった。
 全面に紙があるとより楽しめたのではないかな。
 個人の作品がわかる場所を設定してもよい。
 日によって場所を変えると、いろいろな場で試せるのではないかな。
- ・絵本は大型絵本を使用すると、見やすく、正確な色を見せることができる。

ブロック名	月例会	参加人数	会場
A2ブロック	6月	56名	新宿小学校

【実践報告会 (Aグループ)】

○国語

- ・楽しい詩…「かえるのぴょん」という詩を題材に、音読したり、詩を書き換えたりして学習。
- ・部首組み合わせかるた…板紙に既習の漢字を書いたものを部首ごとに切り離して、かるた遊び。
- ・児童の興味に合わせた小説から漢字を抽出…小説に出てくる漢字を使って問題を出题。
- ・物語を読もう…「はらぺこあおむし」に出てくる言葉を使って、言葉を広げる。お気に入りのページやその理由を書いたポップを作って、廊下や図書室に掲示。
- ・お話の続きを考える…「ね、ぼくのともだちになって」「いろいろバス」など、繰り返しのあるお話を使って、自分なりのお話を考える。
- ・ききとり名人になろう…「ききとりワークシート」を使って、よく聞く学習に取り組んだ。
- ・俳句を作ろう…全校で取り組むものに参加。季語を選んで、季語に関連した言葉を書き出し、出てきた言葉をつなげて俳句作り。絵を描いた上に筆で俳句を書き、作品を作る。
- ・ギガタブで平仮名学習…ひらがなパズル。書き順通りに画を置いていく。
- ・漢字学習…「コグトレ」、ギガタブで「スマイルプラネット」や「オートドロー」

○算数

- ・すごろく…1対1対応、数を数える練習。運動会で学年がそろわない時期に実施。
- ・長さ比べ…魚釣りゲームをして、魚の長さ比べごっこ。長さの計測。
- ・お買い物学習…プリント、お金シールでお金の学習。お菓子や日用品の空き箱を使ってお店屋さんごっこ。買い物学習後は、実際にスーパーマーケットにお買い物へ。
- ・カレンダーの学習…月のカレンダーを作る。カレンダーすごろく。

○図工

- ・国語で学習した絵本と結び付けて…「ごちゃまぜカメレオン」「はらぺこあおむしのちょうちょ」

○体育

- ・表現運動…エリックカール「できるよできる」に合わせて、いろいろな動物の動きを真似する。

○生活単元学習

- ・なかよしすごろく…友達と関わることでクリアできるお題を入れたすごろくを作成。
- ・はすのみクイズをしよう…校内の先生方にインタビューした内容をもとにクイズを作り、毎週お昼の放送で発表する。
- ・先生の名前を覚えよう…毎年全クラスの先生のフルネームを書く。写真をカードにしてカルタ遊び。
- ・風船バドミントン…うちわと風船でバドミントン。体のコントロール、目の集中の練習。
- ・育てて作って食べる…春菊でおひたし、ホウレンソウでケーキ、校庭の梅で梅ジュース。季節感を養う。

○自立活動

- ・掃除の仕方…雑巾絞りやほうきでゴミ集め。やり方の練習だけでなく、ゲーム化して。

市教研 特別支援部会 例会報告書 (7日以内)

ブロック名	月例会	参加人数	会場
Bブロック	6月例会	50名	千葉市立幕張西中学校

○授業研究 『作業学習』 14:00～14:50 (白衣・ハチマキのアイロンがけ)

「仕上がりをイメージしながら、ていねいにアイロンがけをしよう」

- ・白衣グループ、ハチマキグループに分かれて、それぞれの目標に沿ってアイロンをかける。

<白衣グループ>

- ・補助具を使用している生徒は、補助具を正しく使って安全に作業する。
- ・工程表に沿ってすすめ、工程ごとに先生に報告をする。
- ・1枚終わった人は、2枚目をかける。

<ハチマキグループ>

- ・補助具を適切に使用して安全にアイロンがけをする。
- ・10本ごとに先生に報告をする。

○協議会 15:10～16:10

- ・授業の良かった点、改善点
- ・質疑応答

○助言者よりご指導

- ・作業学習の扱い(法的根拠) 作業学習の指導にあたって考慮する点
- ・大切にしたいこと・・・生徒主体な作業学習
- ・今日の授業について
- ・作業学習のねらいについて
- ・補助具を作る上での留意点

ブロック名	月例会	参加人数	会場
Cブロック	6月	37名	千葉市教育会館

○10月例会研究授業の提案者による、対象児童の説明

- ・対象児童について … 学年、主訴、入級の経緯、通級期間、構音検査
- ・指導について … 指導経過、現在の誤り音
- ・講師への質問 … 口や舌の体操の進め方、舌づくりの指導法、他の誤り音を踏まえた指導の順序 等

○講師による講話

- ・構音検査法の説明 … 歯間化（舌が出ている状態）でも、その音として聞こえていれば良い。判断があいまいな音は、もう一度発音させる。日本語にある音に表記できない場合、歪み。どのように歪んでいるかを記載する。誤り方が一貫しているか、サンプルをたくさんとると良い。
- ・対象児童の誤り方の特徴
- ・対象児童への指導の方向性

○質疑応答

- ・入級時はサ音、ソ音、セ音は歯間化していたが言えていた。
→ス音も舌出して練習して良い。耳が育っていて、自己弁別ができています。
音節として8割ほどできていたら、単語の段階に進めて良い。
- ・ス音がフ音になる。
→下の歯と舌で音をつくっている可能性がある。正しい構音位置を示し、意識を改めさせると良い。
- ・口と鼻の両方から息漏れする。
→鼻咽腔閉鎖機能不全が考えられる。鼻をつまんで口から呼気を出すことに慣れさせる。
ブローイングの時間を計る。息を口でためておく練習を用いる。(例 あっぷっぷ など)
- ・置換の構音練習で舌圧子を嫌がる。
→自分で舌を触らせるところから始める。担当者の真似をさせると良い。

○担当者同士の諸連絡、質疑等

- ・ブロック研修会について … きこえ：7月4日（火） ことば：7月5日（水）
- ・千葉市ことばを育てる親の会について … 購入した冊子の説明
- ・8月、9月例会での講話内容の確認

ブロック名	月例会	参加人数	会場
Dブロック	6月	23名	千葉市内私立高等学校 2校

○千葉市内私立高等学校 A校

1 学校の特徴

- ・学校教育目標、教育方針
- ・通信制の各コースの特徴
- ・生徒への配慮及び支援の内容
- ・主な進路・進学先

2 学校内の見学

- ・特色ある授業の様子（英語・eスポーツなど）

3 質疑応答

- ・通信制の学習環境について（タブレットの使用方法）
- ・在籍する生徒の様子
- ・大学以外の進路

○千葉市内私立高等学校 B校

1 学校の特徴

- ・学校教育目標、教育方針
- ・通信制の各コースの特徴
- ・生徒への配慮及び支援の内容
- ・主な進路・進学先

2 学校内の見学

- ・特色ある授業の様子
- ・教材の紹介

3 質疑応答

- ・在籍する生徒の様子及び学習支援の方法
- ・生徒同士の人間関係づくりについて

特別支援教育部会

令和5年度 5月例会報告



市教研 特別支援部会 例会報告書 (7日以内)

ブロック名	月例会	参加人数	会場
A-1	5月	80名	教育会館

- 1 推進委員自己紹介
- 2 ブロックテーマについて「児童の実態に合わせた指導・支援の工夫～楽しい授業を目指して～」
- 3 年間計画 (案)

日時	内容	会場	講師
6/20 (火)	実践報告	千葉市内 小学校	
9/19 (火)	指導案検討	未定	養護教育センター 指導主事
10/17 (火)	授業研究	未定	養護教育センター 指導主事
11/14 (火)	教科の指導について	未定	千葉市内小学校 主幹教諭
1/16 (火)	教材・教具の紹介	千葉市内 小学校	

- 3 今年度からの実践報告と授業研究について
- 4 自己紹介・情報交換 テーマ「子どもたちの様子、困っていることについて」
 - ・実態差が多い中での一斉授業について
 - ・絵をかく会の題材について
 - ・運動会のとときの担任の分担について
 - ・教育支援計画の作成の仕方について
 - ・トイレトレーニングについて
 - ・特別支援学級と特別支援学校の違いについて
- 4 質疑応答
 - ・特になし
- 5 その他
 - ・今後の例会案内についてはクラスルームのストリームに前の週の金曜日までにあげる。
 - ・資料は、学習システム→小中特別支援学校→教職員共有→市教研→特別支援教育部会→A1ブロック→会員の先生方 に入れておく。

次回例会 日付	会場校	内容
6/20 (火)	草野小	実践報告

ブロック名	月例会	参加人数	会場
A-2	5月	43名	千葉市教育会館

【年間活動計画について】

テーマ	月日	内 容	会 場	助 言 者
楽しい授業を作るための支援・指導の工夫	6月20日(火) 14:00～	実践報告会	千葉市内 小学校	
	9月19日(火) 15:30～	個別の指導計画&支援計画 画例文紹介	千葉市内 小学校	
	10月17日(火) 14:00～	学校訪問見学会	千葉市内 小学校	主幹教諭
	11月14日(火) 14:00～	授業研	未定	未定
	1月16日(火) 15:30～	情報交換会	千葉市内 小学校	

【げんき交流会について】

- ・活動はボッチャを行う。
- ・1試合…6投球×2ゲーム(目安10分)
- ・練習コートを2・3コート設置予定。

【グループにわかれての情報交換】

○絵をかく会のテーマについて

- ・こいのぼり(大きなビニールで作って遊んでから、別の紙に描いて切り抜いて構図を考えさせる)
- ・海の生き物(水の色を塗ってからちぎり絵で)
- ・歯磨き(歯ブラシを描いてから腕の位置を考えさせる)
- ・シャボン玉、バブルアート
- ・アジサイ、木の絵
- ・運動会の思い出
- ・ザリガニ、テントウムシ、亀、ウサギ
- ・スクラッチ など

○げんきキャンプの活動案

- ・花火、モルック、ウォークラリー、アヒルホッケー、エコバッグ作り、水鉄砲、バンダナ作り、野外炊飯、ハイキング、ナイトハイク、キャンプファイヤー、星の観察、夜の散歩、万年カレンダー作り、草木染め、木のオブジェなどのクラフト

○会計について

- ・市会計と共同購入費を分けるのが難しい。(会計の仕組みが難しい)
- ・全員一人ずつ会計を作成。
- ・学級で作成し、個別に買うものは個別に集金。

次回例会 日付	会場校	内容
6月20日(火)	新宿小 (車の乗り入れは不可)	実践報告会

市教研 特別支援教育部会 例会報告書 (7日以内)

ブロック名	月例会	参加人数	会場
Cブロック	5月	36名	千葉市教育会館

○今年度のブロックテーマの決定

- ・Cブロックテーマ

「学級で生き生きと生活できる子どもの育成を目指して」

○今年度の研修日程・計画についての協議、各例会の会場の相談

日時	活動内容	会場
6月20日(火) 14:00～	○「構音指導の実践方法について」 講師：こども病院 言語聴覚士 ○事例検討 助言者：こども病院 言語聴覚士	千葉市内小学校
8月22日(水) 14:00～	[特別支援教育部会全体] ○特別支援教育講演会	未定
9月19日(火) 15:30～	○言語難聴別のグループ協議 言語：吃音指導で活用している教材の紹介 難聴：ケース会議、情報共有	オンライン
10月17日(火) 14:00～	○指導案検討 千葉市内小学校 教諭	千葉市内小学校
11月14日(火) 14:00～	○授業展開 授業者：千葉市内小学校 教諭 ○協議会 助言者：こども病院 言語聴覚士	千葉市内小学校
1月16日(火) 15:30～	○言語難聴別のグループ協議 言語：各校ことばの教室施設紹介 難聴：ケース会議、情報共有	オンライン

○担当者同士の諸連絡、質疑等

- ・6月例会での講話内容の確認
- ・県特連等についての連絡

次回例会 日付	会場校	内容
6月20日	千葉市立院内小学校	○「構音指導の実践方法について」 講師：こども病院 言語聴覚士 黒谷まゆみ先生 ○事例検討 助言者：こども病院 言語聴覚士 黒谷まゆみ先生

市教研 特別支援部会 例会報告書 (7日以内)

ブロック名	月例会	参加人数	会場
Dブロック	5月	11名	千葉市教育会館

- 1 自己紹介
- 2 年間計画について
 - ・特別支援教育部会研究主題
特別な教育的支援を必要とする児童生徒の理解と支援・指導のあり方
 - ・Dブロックの主題
卒業後の生活につながるよりよい支援・指導のあり方
 - ・年間計画

日	時間	内容	講師	場所
6/20(火)	14:00 ～	サポート校の見学 (配慮が必要な生徒の卒業後の様子)	千葉市内高等学校 職員の先生	千葉市内高等学校
8/22(火)	9:00 14:00	AM 市全体 PM 部会全体		
9/19(火)	15:30 ～	教材研究 (各学校の教材の紹介)	なし	オンライン
10/17(火)	14:00 ～	教材研究	なし	千葉市内中学校
11/14(火)	14:00 ～	「自立・就労に向けて」	発達障害者支援 センター講師	千葉市内中学校
1/16(火)	15:30 ～	一年間の振り返り 次年度の見通し	なし	オンライン

3 諸連絡

(1) 次回について

6月20日(火)14:00から

千葉市内高等学校(2校)の施設見学と講話駐車場などの連絡は、
ギガタブやファックスでお知らせします。

(2) 予算について

(3) classroomについて

オンライン研修や連絡で使用します。各自でご確認をお願いします。

次回例会 日付	会場校	内容
6月例会 6/20(火)14:00	クラーク記念国際高等学校 明聖高等学校	サポート校の見学 (配慮が必要な生徒の卒業後の様子)